

地域医療連携を推進する福岡大学病院の活動 “顔の見える”関係を育てるセミナーを企画・開催



福岡大学病院
病院長

田村 和夫 氏

大学病院でありながら、様々な重症度の患者を診なければならない福岡大学病院は、紹介率・逆紹介率のアップで病床利用の効率化を図り、救急患者の受け入れ体制を整えている。内にあつては地域医療連携部署の迅速な働き、外に向けては各種セミナーで地域の医療関係者との関係構築とその強化に努めている。

● 地域連携室の体制強化が 逆紹介率の向上に寄与

——福岡大学病院がある福岡市城南区は病院、診療所がそれぞれ9施設、102施設と同市の他区と比べて少ないようです。一方、大学病院として高度先進医療や三次救急を担っています。

限られた医療圏内の医療資源の中でその役割を果たしていくためには、スムーズな病診連携が必要不可欠ですね。

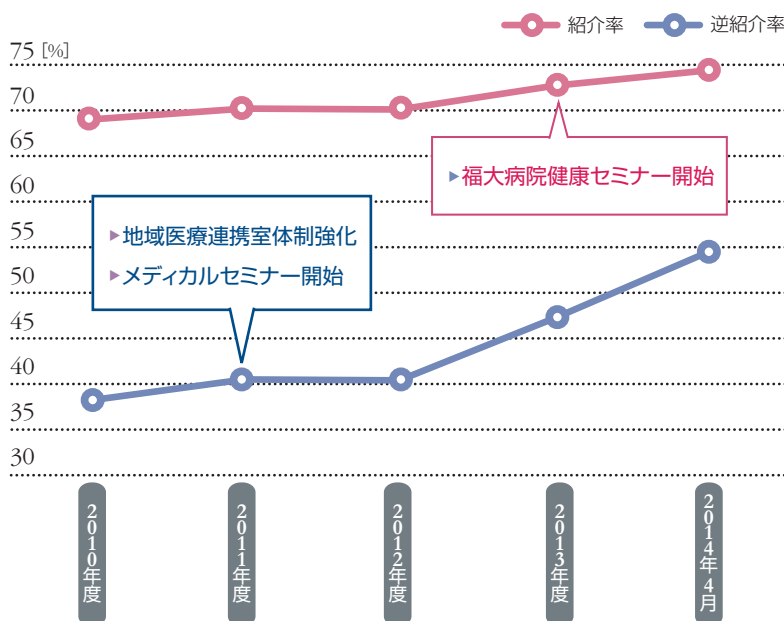
田村和夫氏 福岡大学病院は特定機能病院として臓器移植などの先進的な医療に取り組む一方、医療圏内の

病院が少ないため三次救急に限らずあらゆる救急の患者さんを受け入れています。いつでも受け入れられる状態を維持するには、病床を効率よく利用できるように急性期治療を終えた患者さんを速やかに自宅に戻す、あるいは回復期リハビリテーション病院や診療所を紹介して移ってもらうことが重要です。

また、外来の患者さんが多すぎることも問題になります。患者さんを長時間待たせるだけでなく、救急対応など本来期待されている役割を果たしにくくなります。外来の患者さんを減らすには、普段は地域の診療所に通ってもらい、いざというときスムーズにこちらの病院に来てもらえるよう、やはり地域の医療施設との連携が重要になります。

私たちは、スムーズな連携を図るため2011年度に看護師2人を配置して地域連携室の体制を強化しました。それ以前の2010年度の紹介率は69.0%、逆紹介率は38.2%でしたが、そこから年々向上してきました(図1)。その効果をさらに高めるため、今年度からセンター化し、副院長がセンター長を務めています。スタッフも増員し、看護師6人を専従にしました。2014年4月の紹介率は74.4%、逆紹介率は54.5%となり、うまく機能していることが分かりました。看護師が窓口となっているので

図1 福岡大学病院の紹介率と逆紹介率の推移



2011年度の地域医療連携室体制強化と医療関係者向けのメディカルセミナーをきっかけに逆紹介率が向上した。

すが、紹介元や紹介先の医療機関の方々から「患者さんの病態についてきちんと話ができるだけでなく、話しやすいので相談や紹介がしやすくなった」といった声が届いています。

● 連携のきっかけを作る セミナーを医師会と開催

——多くの医療機関では、まず連携先を確保するところから苦労しているようです。福岡大学病院では、連携関係を構築する際、どのようなきっかけ作りをしていますか？ また、信頼関係をより強固にするための活動を行っていますか？

田村氏 病院が主催するもの、各診療科が独自に開催するものなど様々ですが、他の医療機関の方々を招いた勉強会やセミナー、カンファレンスなどを通して、“顔の見える”関係作りを続けています(図2)。

病院が企画するものとしては、11年から年4回、医療関係者を対象にした「メディカルセミナー」を開いています。より多くの方々に参加していただくために、福岡市医師会との共催にするだけでなく、日本医師会生涯教育カリキュラムの単位が取得できるようなプログラム作りに努めています。

そのテーマは、「消化器疾患の診断・治療」「循環器疾患」「東洋医学の楽しみ」など様々な領域から選定します。高齢の患者さんは複数の疾患を抱えていることが多いので、専門以外の領域の知識を持っていただければと考えるの事です。

また、患者さんが耐性菌を持った

○ 図2 福岡大学病院が開催するセミナー

	福岡大学病院 メディカルセミナー	学んで予防! 《福大病院健康セミナー》
開始時期	2011年5月	2013年9月
参加者	医療関係者	一般市民
主な テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ▶消化器疾患の診断・治療における先端医療について ▶内科診断学の楽しみ、東洋医学の楽しみ ▶循環器疾患の地域連携に関して(パネルディスカッション) ▶感染症対策の地域ネットワーク ▶降圧治療を考える(パネルディスカッション) など 	<ul style="list-style-type: none"> ▶認知症の予防について ▶脳卒中の予防について ▶インフルエンザや食中毒の予防について ▶胃や腸で気になることはありませんか? ▶寒い時期、心臓病から身を守ろう! ▶息切れを“トシ”のせいと思っていませんか? など
効果	<ul style="list-style-type: none"> ▶地域の医療関係者のレベル向上 ▶講師依頼を兼ねたファーストコンタクト など 	<ul style="list-style-type: none"> ▶市民の健康意識の向上 ▶地域の診療所医師の専門性をアピール など

医療関係者向けの「福岡大学病院メディカルセミナー」は、木曜や金曜など、平日の午後7時から2時間～2時間30分行われる。一般市民向けの「学んで予防!《福大病院健康セミナー》」も月に1度、木曜日に開催される。いずれもたくさんの参加者が集まり、人気を博している。

まま転院する可能性もあるので、感染症対策の情報を共有するために「感染症対策の地域ネットワーク」といったテーマを選ぶこともあります。

セミナーの構成には、私たちがどのような医療を行っているかを知っていただくためのレクチャーに加えて、他の医療機関のスタッフにも参加してもらおうパネルディスカッションも組み入れています。参加された方々が受け身にならないようにするための工夫ですが、関係を構築していきたいと考えている医療機関の方々にパネリストとして参加を依頼することがコミュニケーションのきっかけにもなります。

● 診療所の専門性を示す 一般市民向けのセミナー

——外来の患者さんが多い病院では、「診療所を紹介しても、しばらくすると病院に通うようになってしまう」という悩みを抱えているようです。こちらの病院はいかがですか？

田村氏 そういった患者さんもらっ

しゃいます。私たちは「必要なときに必要な医療を受けられる状態を守るために、病院と診療所を上手に使い分けてほしい」と患者さんにお話ししているのですが……。

2013年から一般市民向けに病気の予防をテーマにした「健康セミナー」を城南区役所や城南保健所、城南区の各自治協議会・各公民館の協力を得て開催しています。このセミナーでも地域の医療機関の医師の講演やパネルディスカッションを取り入れています。ある診療所の医師が循環器診療の話をする、「あの先生は循環器の専門家だ」と理解されて、安心して受診するようになるようです。このセミナーは市民の健康意識の向上だけでなく、逆紹介を成功させる効果もあると言えるでしょう。

これらのセミナーは、私たちを含めたこの地域全体の医療関係者のレベルアップが目的ですので、今後も充実させていかなければと考えています。